

# はじめに

この報告書は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構（以下「機構」という。）が私立専門学校を対象として平成21年度に実施した第三者評価事業の結果を取りまとめたものです。

今日、第三者評価は、医療、福祉など公共的サービスの分野において幅広く行われるようになってまいりました。しかし、学校教育の分野では、法律で第三者評価が義務づけられているのは大学・短大等のみで、同じ高等教育の一翼を担う専門学校については、ようやく平成19年度から自己評価の義務づけが制度化されたところです。

このような状況の中で、平成16年、いち早く、東京の専門学校関係者や行政関係者が中心になって、特色ある教育を実践する専門学校教育の情報を積極的に開示し、教育の質を保証する仕組みとして第三者評価制度を導入することを決意し、当機構を設立しました。

以来、機構では、職業教育機関である専門学校等に相応しい評価制度のあり方を検討し、モデル事業による検証を行いながらシステム構築を続けてきました。同時に、第三者評価の環境づくりとして、自己点検・自己評価の普及を図るため、点検基準や帳票様式を整備し、研修の実施などの啓発活動にも取り組んでまいりました。

機構の第三者評価制度の特徴は、自己点検・自己評価と同一の評価基準を適用し、各学校が自己点検・自己評価を継続的に実施する中で改善を進め、一定のレベルに到達した段階で第三者評価を受けることができるようなシステムとなっており、平成19年度から本格的に第三者評価事業をスタートいたしました。

このたび、応募された専門学校関係者、評価業務に携わった学識者、企業関係者、専門学校関係者、公認会計士の評価委員の方々のもとより、行政関係者、関連する業界団体から、あたたかいご支援をいただき、第三者評価事業が完了したことにつきまして、あらためて心から厚く御礼を申し上げます。

当機構は、第三者評価事業をさらに普及・発展させるため、システムの改善や啓発活動に努めてまいりますので、今後とも引き続き皆様のご指導を賜りますようお願いを申し上げます。

この報告書が、専門学校教育に対する理解と信頼を一層高めていただく資料となれば、喜びこれに過ぐるものではありません。

特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構

理事長 茅野祐子